

今号のトピックス 筆頭顧問の交代、寄稿「沖縄の子どもたちを守りたい」、ネットニュースより

筆頭顧問の交代

THInet 発足(2017.12)にあたり日本医師会に本会顧問を依頼し、道永麻里先生が着任され、この間ご指導、ご支援を多々いただきました。

6月の医師会会長選挙が行われ、会長が替わられましたので、理事も全員交代されたようです。そして、第1回の理事会で、学校保健担当になられた常任理事の渡辺弘司先生を、本会顧問に推薦して下さいました。

中川俊男新会長から、7月14日付けで「顧問交代について」の通知を拝受しました。

渡辺弘司新顧問は、広島県医師会選出で、呉市で小児科医院を開業されておられるようです(Web情報)。

現在医師会と連絡を取り、共同代表と事務局長でご挨拶に伺う段取りを取っております。

今コロナ対策で医師会も相当お忙しいことと存じますので、お目にかかれるのは先になることと思います。

道永先生に、この場をお借りて感謝を申し上げます。(共同代表 大谷良光)

伊藤理恵のネットニュース

新型コロナでの自粛期間中に子どもたちはメディア漬けの生活だったであろうことは想像に難くありません。それに伴い、やはり、というか最近のニュースにもいろいろな問題が出始め、今回は“目”についてのニュースがいくつか見られました。そのうちのひとつです。スマホなど近距離で使うIT機器の長時間使用が関係しているのではないかと、日本斜視弱視学会が全国調査を開始したとも伝えられています。

◆コロナで増えたスマホ時間 子どもの目をどう守る? (両丹日日新聞 2020.7/2(木)配信)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8dc0f56bd9ff62d77f25445c2d0103a1c78d1ddb?page=1>

京都府福知山市駅南町、福知山医師会の「いなば眼科クリニック」稲葉純子院長のお話。最近、眼科医の間で心配されているのが『内斜視』(これは、養成協では、鈴木武敏先生の見解から、早いうちから取り上げていた症状。ここにきてようやく認識されだしたという感じ)また、近視の低年齢化も進んでいるという。近視が進むと失明の恐れもあることから、子どもの目を守るためにも周囲の大人が気を付けるようにしてほしいと稲葉氏。IT機器を使う時の姿勢や使用時間などについて具体的なアドバイスもしている。目に異常を感じたら受診は自粛しないで!と呼びかけている。

「沖縄の子どもたちを守りたい」認定インストラクター 金城明子様より

「スクールガーディアン」という言葉を耳にしたことはありますか。私の勤める会社が提供しているソーシャルメディアの活用をサポートするサービスブランドです。今から13年ほど前、ちょうど「学校裏サイト」が流行していた頃、ネットいじめを苦に一人の高校生が自らの命を絶ってしまうという痛ましい事件がありました。その時に「私たち大人に何かできることはないのか」という強い思いから立ち上がったのが「スクールガーディアン」でした。子どもたちの投稿を見守るサービス、いじめを匿名で通報できるサービス、SNSを利用して子どもが直接専門員と相談できるサービス、ICT教育支援や、啓発のための講演など、様々な形でサービスを展開しています。私自身がスクールガーディアン事業に関わるきっかけとなったのは、数年前のある日、当社代表に声をかけられたことが始まりでした。

「沖縄の子どもたちを守りたくないか?」

突然すぎて驚きました。が、すぐに「守りたいです」と答えたのを記憶しています。IT化が目まぐるしく進化し、ネット社会の広がりが加速する中、子どもたちは意図せず様々なトラブルや事件に巻き込まれていきます。スクールガーディアンの活動を通して、このサービスの役割と重要性を強く感じ、私自身もその一端を担えることを誇りに思います。現在、私は沖縄県内で講演を中心に活動していますが、一人でも多くの子どもたちにネットの危険性を伝えたい。そして、ネットでトラブルに巻き込まれる人を一人でも減らしたい、そんな強い使命感を持って取り組んでいます。「子どもが健全にインターネットを使える環境をめざして」というスクールガーディアンのミッションのもと、これからも啓発を続けていきます。